

生きるとは? (12)

「神に帰る、その日まで」

(館野 真貴子 牧師)

【聖書のみことば】 伝道者の書 12章 1-8節

- 1 あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわざの日が来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。
- 2 太陽と光、月と星が暗くなり、雨の後にまた雨雲がおおう前に。
- 3 その日には、家を守る者は震え、力のある男たちは身をかがめ、粉ひき女たちは少なくなって仕事をやめ、窓からながめている女の目は暗くなる。
- 4 通りのとびらは閉ざされ、臼をひく音も低くなり、人は鳥の声に起き上がり、歌を歌う娘たちはみなうなだれる。
- 5 彼らはまた高い所を恐れ、道でおびえる。アーモンドの花は咲き、いなごはのろのろ歩き、ふうちょうぼくは花を開く。だが、人は永遠の家へと歩いて行き、嘆く者たちが通りを歩き回る。
- 6 こうしてついに、銀のひもは切れ、金の器は打ち砕かれ、水がめは泉のかたわらで砕かれ、滑車が井戸のそばでこわされる。
- 7 ちりはもとあった地に帰り、霊はこれを下さった神に帰る。
- 8 空の空。伝道者は言う。すべては空。